

事業再評価シート

事業名	道整備交付金事業		
箇所名	森林基幹道 西林・神陰線	市町村名	日向市

(上段()書きは当初計画)

実施方法	補助 交付金 県単			
事業期間	採択年度	再評価年度	完了予定年度	
	H17	H27	() H36	
事業進捗	全体事業費 (百万円)	既投資額 (百万円)	進捗率(%)	
	() 2,844	1,652	() 58	() 74
再評価の概要	対象選定理由		事業効果(B/C)	対応方針原案
	事業採択後10年経過		() 1.31	継続

全体計画	<p>全体計画延長：13,800m 起点：日向市東郷町下三ヶ字板山 終点：日向市東郷町山陰字庭田</p> <p>利用区域内の現況 利用区域面積：1,027ha うち民有林面積：941ha(国有林面積：86ha)</p> <p><参考> 森林整備状況(直近10ヶ年)</p> <p style="text-align: right;">単位：ha</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">H17-H36</th> </tr> <tr> <th>計画</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主伐</td> <td style="text-align: center;">46</td> <td style="text-align: center;">23</td> </tr> <tr> <td>間伐</td> <td style="text-align: center;">219</td> <td style="text-align: center;">44</td> </tr> <tr> <td>造林</td> <td style="text-align: center;">40</td> <td style="text-align: center;">31</td> </tr> <tr> <td>保育</td> <td style="text-align: center;">63</td> <td style="text-align: center;">35</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: center;">368</td> <td style="text-align: center;">133</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H17-H36		計画	実績	主伐	46	23	間伐	219	44	造林	40	31	保育	63	35	計	368	133
区分	H17-H36																				
	計画	実績																			
主伐	46	23																			
間伐	219	44																			
造林	40	31																			
保育	63	35																			
計	368	133																			

事業概要

< 林道開設 >

全体延長 13,800m
総事業費 2,844百万円
事業期間 平成17年度～平成36年度(20力年)

< 林道区分 > 森林基幹道

自動車道区分 2級
車道幅員 3.0m
全幅員 4.0m

事業目的

目的と必要性

県道山陰・都農線の未整備区間である坪谷地区と寺迫地区を結ぶ東郷町中南部の骨格路網となる基幹道を開設することにより、
効率的な森林経営や森林の適正な管理
集落間連絡道の確保や災害時における奥地集落の迂回路的機能の発揮
県内外からの森林の総合利用を目的としたアクセス道としての機能を果たす。

計画での位置付け

林道網整備計画及び地域森林計画による

事業を継続する必要性

平成18年度から開設を始め、10年経過した平成27年度末現在における計画延長に対する進捗率は62%と高く、順調に開設延長を伸ばしてきている。また、当該路線は地元からの要望及び開通への期待も高いことから、事業を継続する必要がある。

事業の進捗状況

現在の事業進捗状況

平成27年度末現在 事業費進捗率：58% (1,652百万円 / 2,844百万円)
延長進捗率：62% (8,491m / 13,800m)

今後の事業進捗見込み

完成区間は既に供用を開始しており、残りの区間(約5,300m)については引き続き整備を図り、平成36年度までには全線完成する予定である。

社会情勢等の変化

利用可能な国内の森林資源が充実しつつあることから、安定供給可能な資源として国産材への期待が高まっている。

スギ素材生産量（全国 1 位）	平成26年	1,533 千m3
製材品出荷量	平成25年	749 千m3
	うち県外出荷	503 千m3(67%)

利用可能な林分が増えており、今後は、主伐や長伐期施業の増加が見込まれる。

県全体（平成26年）

- ・ 保育管理が必要な 7 齢級以下 30%
- ・ 収穫可能な 8 齢級以上 70%

本路線の状況

民有人工林面積	うち収穫可能な面積 (8~10齢級以上)	割合
509ha	187ha	37%

木材価格が長期に低迷しており、生産コストの縮減が重要となっている。

スギ素材価格（中丸太）

事業採択時(H17)	11,800 円 / m3
現在(H26)	12,900 円 / m3

地球温暖化防止のためのCO₂森林吸収源対策として、間伐等の森林整備・保全を一層加速化していくことが重要となっている。

間伐計画	国（H25～32年度）毎年52万ha	計416万ha
	県（H25～32年度）毎年1万ha	計8万ha

木材需要増加への対応が求められている。

大型製材工場や木質バイオマス発電施設の稼働に伴い、木材需要が増加傾向にあることから、これらに対応していくことが求められている。

現在も地域住民からの早期開通が望まれている。

当路線は、全線開通が間近であることに加えて、森林管理及び木材生産の基盤、非常時におけるバイパス的役割等多様な用途が期待されていることから、早急な開通が望まれている。

事業効果の分析			
費用対効果 (B / C)			
総便益 (B)		総費用 (C)	
項目	金額 (千円)	項目	金額 (千円)
木材生産等便益	1,136,825	事業費	2,926,325
森林整備経費縮減等便益	1,931,873	維持管理費	29,195
環境保全確保便益	804,381	合計	2,955,520
合計	3,873,079		
		総便益 (B)	3,873,079
		総費用 (C)	2,955,520
			= 1.31
<p>事業を継続することの事業効果分析 林業生産性向上による低コスト化</p> <p>開設効果指数</p> <p>生産指数 + 育林指数 = 4.06 1.2</p> <p>・ 生産指数 = $\frac{\text{蓄積計}}{\text{民有林針葉樹面積} \times 100 + \text{民有林広葉樹面積} \times 30}$</p> <p>= $\frac{258,111}{511 \times 100 + 430 \times 30}$ = 4.03</p> <p>・ 育林指数 = $\frac{\text{利用区域内の3齡級以下の面積}}{\text{民有林針葉樹面積} + \text{民有林広葉樹面積}}$</p> <p>= $\frac{29}{511 + 430}$ = 0.03</p>			

コスト縮減、環境配慮等

切土量を抑制するため、可能な限りL型擁壁工やかご枠擁壁工等を採用したり、切土盛土量のバランスをとるとともに当林道外への残土運搬経費の削減を図るため現場内盛土施設の設置に努めている。

また、環境に配慮し、濁水対策としては、導水パイプや、盛土法面への丸太筋工や種子吹付工を施工するなど、早期緑化による法面の流出防止等を図っている。

代替案の可能性

全体計画 (20 力年) に基づき開設を実施し、10年経過後の進捗率も計画延長で62%、事業投資額で58%と計画どおり進んでおり、代替案は示していない。

対応方針

継続

位置図(管内図)

